

第1学年A組 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：自分の命を守る力を身につけよう

～災害の時、私たちは地域とどうつながり、どう命を守るか～

本単元で育成を目指す資質・能力【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学びに取り組む態度】

指導者 呉市立明德中学校 藤田 奈央

- 1 日時 令和4年12月7日（水）
- 2 場所 呉市立明德中学校 第1学年A組教室
- 3 学年 第1学年A組（男子6名 女子5名 計11名）

単元について

4 単元について

本単元は、中学校学習指導要領 総合的な学習の時間の目標及び本質的な問い「わたしたちは、地域とどうつながり、どう生きていくか」を基に構想した。

＜総合的な学習の時間の目標＞

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようにする。
- （2）実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- （3）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

本校区では平成30年7月6日に起きた西日本豪雨により、土石流や浸水により多くの家屋・道路などが被害を受け、貴重な人命が奪われた。地域に生きる生徒が、この体験や記憶をもとに、今後予想される土砂災害や南海トラフ地震などの混乱の中で、自分自身や家族・仲間の命をどう守っていくか、「自分にできること」という視点から自ら設定した課題を解決していくことを通して、本中学校区で育成を目指す資質・能力【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学びに取り組む態度】を育成することをねらいとしている。

本単元では、災害の時に何が起きるかをイメージし、命を守るために必要な知識や、自分にできる技能を身につけることで、生徒一人一人が自分の生活や行動に生かそうとする思いをもつことができることを期待している。このような学びの姿は、授業者が設定した本質的な問いを基にした探究的な学びを具現化するものであり、本中学校区で設定した資質・能力の育成につながると思う。

5 生徒について

本校では、1学期の土砂災害対応の避難訓練や、防災携帯マニュアルマイタイムラインを関連付けた防災学習、2学期の津波を想定した明德中学校区保小中合同避難・防災訓練、呉市危機管理課から講師を招聘した救急救命法（心肺蘇生法）講習等、防災に係る取組を数多く行っている。生徒たちは、自分たちにできる命を守るための備えを学び、行動に繋げるという意識が根付いている。

本学級の生徒は、1学期の総合的な学習の時間において、課題解決に向けてインターネットや資料等で情報を収集・整理し、仲間と話し合っ自分の考えを広げたり深めたりするなどして考えをまとめたりする学習活動を行ってきた。地域の人に積極的に質問する様子や、対話的な活動を通して意見を交流する経験を積んできていることから、自分の考えを抵抗感なく伝えられる生徒が多い。

しかし、普段の学習活動の様子を見ると、相手を意識し、表現を工夫して発表したり、学んだ内容を分かりやすくまとめる力は十分ではないと考えられる。

また、事前に行ったアンケートでは、生徒の肯定的回答の割合は次のようになった。

「自分の命は自分で守る」という防災の基本を理解している。	100%
地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある。	82%
災害から、自分を守るために何か備えをしていますか。	36%

生徒は、小学生の時に、避難場所の確認やハザードマップ作成など災害から身を守る学習をしており、それらに関心はあるものの、実際に災害が起こった時の備えに関しては、十分であるとは言えない。また、「呉市学校防災週間」の取組をはじめ、これまでも防災について学んできたが、災

害への意識には個人差がある。そこで、防災教育を通して「自分事」として学習に取り組める探究的な活動を仕組み、自分や自分を取り巻く家庭・地域の生命の安全を守っていく意識をもたせる必要がある。

本単元に関わる事前アンケート結果

○災害から自分や家族、仲間の命を守るために、具体的に知りたいことや身に付けたいこと

- ・災害が起きたときの正しい判断力
- ・避難ルート ・自分や仲間の命を守るために何を備えたら良いか
- ・物が崩れてきたときに対処法 ・避難時に野生の動物と出会った時に何をすべきか
- ・地域の危ない場所 ・怪我した人の応急処置
- ・災害時の逃げ方 ・防災グッズについて
- ・災害が起こったとき、自分たちでもできること ・災害時の時の避難経路を覚える
- ・火災が起きたときどうしたらいいのか知りたい ・どういう時に災害が起こりやすいのか

6 指導について

指導に当たっては、次の3点に留意する。

《明德中学校区での重点項目》

①【学びを自分事として捉え、学ぶ喜びを引き出す工夫】

単元を通して、本質的な問い「わたしたちは、地域とどうつながり、どう生きていくか」を意識させ、「自分と地域とのかかわり」や「自分の生き方」に係って、生徒が自ら問いを見出すことや、新たな問いを見出すことができるよう、しかけを入れて単元構成を工夫する。

単元前に、赤十字による心肺蘇生法の講習（10月15日）で、応急手当の重要性と、家族や身の回りの人の命を守るために自分に何ができるか考えさせるきっかけとする。

第1次では、近年数多く発生している様々な自然災害について知り、各災害時が発生した際の被害状況や、それに対する対策について「ぼうさい〈ダ・ズ・ン〉（防災グッズ編）」と「ぼうさい〈ダ・ズ・ン〉（天ぷら油火災編）」（いずれも防災ゲーム研究会編）の2つの防災ゲームを通して学ばせる。災害に備える防災グッズの重要度と、火災に直面したときの正しい行動について、なぜそれが重要なのか、なぜ正しいのかという問いをもたせ、自分ごととして考えさせていきたい。

第2次では、地震・津波を想定した明德中学校区保小中合同避難・防災訓練の実施から、自分の命を守るという「自助」のためだけでなく、地域の一員として地域の人々とともに命を守る自覚をもたせる。授業参観に合わせて、「防災教育教材『災害状況を想像する力を身に付けよう』（協力：東京大学生産技術研究所目黒研究室）」を用いて、地震発生後を想定した自分や家族、近所や学校の状況を想定して記入し、どんな問題が発生するのか、自分はどの行動すべきか、保護者の人とも話し合いながら災害に対しての事前準備や最善策などについて、時系列に沿って状況や課題をイメージさせることで問いをもたせていきたい。

②【つながりや学びを深める発問や対話の工夫】

探究的な活動を支える土台として、探究的な見方・考え方を働かせることをより重視し、各教科等との関連を意識して、単元を構成する。

保健体育科での心肺蘇生法の講習や、地震・津波を想定した避難訓練と取組の時期を合わせることで、災害が起きたら自分はどの行動するか、自分事として捉えさせることを意識した。また、第3次での課題解決や発表の場面は、理科・国語科（スピーチ）・家庭科などでの学習との関連を意識させていきたい。また、第1次・第2次の内容を基に、自分が身に付けたい課題について調べる。調べた防災の知識を基にして発表資料をつくり、発表会を開催する。情報を収集して実行につなげていく力を涵養したい。また、このような学習活動を通して自分達の防災意識を高め、災害が起きたときに各自適切な行動がとれるようにする。

③【個に応じた指導の工夫】

- ・学習の流れを視覚化する。
- ・TTを活用し、内容の理解が進んでない場合は繰り返し指導する。

単元の目標及び評価規準

7 単元の目標

- 防災についての知識を学び、災害の状況を想像する中で、自分が身に付けたい力を課題として設定したり、必要な情報を収集したりしながら、「自分の命は自分で守る」ためにできる防災について考え、実践に生かすことができる。

8 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学びに取り組む態度
① 災害から生き延びるために必要な物品・行動などについて、その根拠や効果とともに理解している。 ② 調べ学習によって、目的や対象に応じた調査活動を実施している。 ③ 自分の命を守る知識や技能を身に付けることが、地域と自分たちとのつながりを育てていくことに深く関わっていることを理解している。	① 災害の状況の中で、自分や身の回りの人の命を守るために何をどうすることが必要か、課題を明らかにしている。 ② 防災に関する課題を解決するために必要な情報について、多様な方法で収集・整理している。 ③ 相手や目的に応じて、ICT機器を活用するなど伝え方を工夫して、分かりやすく表現している。	① 災害を自分事として捉え、課題解決のための方法を考えようとしている。 ② 自分と異なる意見や他者の考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。 ③ 自分と地域とのつながりを意識しながら、自分ができる防災を考えようとしている。

指導と評価の計画

(全16時間) 【本時14/16時間】

〈本質的な問い〉わたしたちは、地域とどうつながり、どう生きていくか。

次(時)	学習内容	評価	
		観点	評価方法
一 (4)	課題の設定 情報収集 「自分の命を守るために、何を身に付けばよいだろう」 ○ これまでの防災学習を振り返り自分が取り組みたい活動を考える。 ○ 防災ゲーム(「ぼうさいくダ・ズ・ン」(防災グッズ編)と「ぼうさいくダ・ズ・ン」(天ぷら油火災編))に取り組み、災害への備えや発生時の対応について学ぶ。(2時間) 【保健体育科】心肺蘇生法実習 情報収集 整理・分析 ○ 解答を基に、災害時のよりよい対応の仕方について知る。 ○ 防災ゲームの自分の解答・グループでまとめた解答と正答とのずれの原因について考える。(2時間)	・主体的に学びに取り組む態度① ・思考力・判断力・表現力①	ワークシートの記述、発言内容 ワークシートの記述、発言内容
		・知識・技能① ・主体的に学びに取り組む態度②	ワークシートの記述 ワークシートの記述、発言内容

【単元を貫く課題】自分の命を守るために、災害の状況の中で自分たちができることは何だろう。



【単元を貫く課題】自分の命を守るために、災害の状況の中で自分たちができることは何だろう。

<p>二 (4)</p>	<p>新たな課題の設定</p> <p>「災害の中で自分の身に何が起こるかを考えよう」</p> <p>情報収集</p> <p>○ 震度6弱の地震とはどのようなものかを知る。(2時間) 【学級活動】避難訓練</p> <p>整理・分析</p> <p>○ 震度6弱の地震が起きたら自分の身にどうということが起きるか、情報をもとに時系列で考える。(2時間)</p>	<p>知識・技能②</p> <p>思考力・判断力・表現力②</p>	<p>ワークシートの記述</p> <p>ワークシートの記述、発言内容</p>
<p>三 (8)</p>	<p>新たな課題の設定</p> <p>「命を守るための技を身に付け、みんなに広げよう」</p> <p>○ これまでの学習を基に、自分が身に付けたい課題を設定する。(1時間)</p> <p>情報収集</p> <p>○ テーマ別グループで発表計画を立案し、自分の課題解決に向けて必要な情報を収集する。(4時間)</p>	<p>主体的に学びに取り組む態度①</p> <p>知識・技能②</p>	<p>ワークシートの記述、発言内容</p> <p>ワークシートの記述</p>
	<p>整理・分析</p> <p>○ 収集した情報を整理し、効果的な発表の仕方を考える。(1時間) 【本時1】</p>	<p>思考力・判断力・表現力③</p>	<p>ワークシートの記述、発言内容</p>
	<p>まとめ・表現・振り返り</p> <p>○ テーマ別グループ間で交流を行う。(1時間)</p> <p>○ 学習の振り返りを行う。(1時間)</p>	<p>知識・技能③</p> <p>主体的に学びに取り組む態度③</p>	<p>ワークシートの記述</p> <p>振り返りシートの記述、発言内容</p>

本時の展開

9 本時の目標

交流に向けて、わかりやすく効果的な発表の方法を工夫することができる。

10 本時の評価規準 付きたい資質・能力【思考力・判断力・表現力③】

参観者を意識して、わかりやすい表現になるように発表の仕方を考えている。

11 本時の学習展開（第14時／全16時間）

分	学習活動 ○…主な発問	指導上の留意点	資質・能力の評価 (評価方法)
5	1 これまでの学習内容を振り返り、本時の学習課題を確認する。		
わかりやすく効果的な発表になるよう工夫し、お互いの発表を評価しよう。			
25	○ 発表の時のポイントはどんなことがありますか。 2 グループに分かれて発表のリハーサルを行い、互いに見合う。 Aグループ（応急手当・体力づくり） ・ 災害から生き抜くための体力作りや止血・骨折の手当・負傷者の運搬について、実演を用いて理解してもらおう。 Bグループ（突然変わる環境から命を守るために） ・ コンパクトモールス信号機の造り方や、学校の危険場所を知ってもらおう。 Cグループ（生き延びるために） ・ 水を綺麗にする方法や、段ボール椅子の作り方、非常持ち出し袋の内容や災害時に必要な物資・食料などについて知ってもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を聞きつつ、わかりやすく効果的な発表になるポイントを示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 《発表の時のポイント》 ① 目的【何を伝えたいか分かる】 ② 内容【伝えたいことが表現できているか・興味をもてたか】 ③ 発表の仕方【適切な声の大きさ・話す速さやリズム、抑揚・身体の向きや態度・表情や手振り身振り・指示棒の使い方】 ④ 表現【文字の大きさや色や量が見やすいか・アニメーションの使い方は適切か・資料の提示順番は適切か】 </div>	
10	3 リハーサルの評価を伝え合い、参観者側からのアドバイスを伝え合う。 ○ リハーサルを終えて、改善しようと思ったことはどんなことですか。		
5	4 アドバイスを基に、本番に向けて、発表を練習する。		<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、ICT機器を活用するなど伝え方を工夫して、わかりやすく表現している。 【思考力・判断力・表現力③】 (ワークシートの記述、発言内容)

5	5 振り返りを行う。	<p>振り返り例</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ もっとゆっくりと説明した方がいいというアドバイスをもらった。余裕をもって発表できるよう，話す内容を絞りたい。 ○ 実物を見せてもっと興味をもってもらえるように準備しておきたい。
---	------------	---

12 板書計画

自分の命を守る力を身につけよう

めあて **わかりやすく効果的な発表になるよう工夫し，お互いの評価しよう。**

《発表の時のポイント》

- ① 目的【何を伝えたいか分かる】
- ② 内容【伝えたいことが表現できているか・興味が持てたか】
- ③ 発表の仕方【適切な声の大きさ・話す速さやリズム，抑揚・身体の向きや態度・表情や手振り身振り・指示棒の使い方】
- ④ 表現【文字の大きさや色や量が見やすいか・アニメーションの使い方は適切か・資料の提示順番は適切か】

授業の流れ

- ①めあての確認
- ②グループに分かれる
前半発表▶リハーサル
後半発表▶参観
- ③交代
前半発表▶参観
後半発表▶発表
- ④評価を伝え合う▶修正
- ⑤振り返り

13 教室配置図

